

<はじめに>

昨今、中国関連ニュースがメディアをにぎわすことが普通になってきていますが、それでもなお心に思い浮かべる中国の風景は、“広大な平原や万里の長城、繁華街の喧騒、ズボンがメインの地味目なファッション、主な交通手段は自転車etc…”という方がいまだに多いようです。

我々日本人にとっての身近な中国人が、近所のスーパーに自転車で買い物に来ている「研修生」であったり、ファストフードでアルバイトしている「留学生」であったり、日本で大量の家電製品を土産に買い込む「観光客」であったりするため、「先進技術がなく、生活が大変で、本物の商品も買えない」＝「たいへん遅れた国」と短絡的なイメージをもってしまうことがその原因なのかもしれません。

しかし、中国大陸では、人々の生活からインフラ整備にいたるまで、急速な発展と発展に伴う問題が我々の想像を超える規模で拡大しています。今回は、身近なテーマとして大連のマイカー事情をとりあげて紹介してみたいと思います。

<中国における急速な自動車普及>

昨年、大連の地元紙で「自動車が既に88万台を突破、大連平均で7人に一人が自動車を所有、今年に入って12月25日までに新車登録が16.2万台を超え、一日あたりの新車登録受理件数は600余台」（2010.12.31大連晩報）との報道がありました。

富山県の自動車保有台数（小型二輪車、軽自動車含む）が、約87.5万台（H22. 3.31現在、富山運輸支局）であることや平成21年度の富山県の新車新規登録・届出台数が約5.4万台（150台/一日）であることと比較すると、いかに大連で自動車が増加しているかがよくわかります。

かつて日本でも1960年代に「三種の神器（カラーテレビ、クーラー、自動車）」が豊かさの象徴として見られ急速に普及したように、現在の中国にも「三種の神器」に相当する「三大件」という言葉があります。

現代中国における「三大件」は、マイホーム（房子）、マイカー（車子）、お金（票子）とされています。（中国新聞網（2009.08.01）、90年代：エアコン、パソコン、ビデオデッキ、80年代：冷蔵庫、カラーテレビ、洗濯機、70年代：腕時計、自転車、ミシン）

頑張ればマイカーが手に入るまでに中国人民は豊かになってきたのか…と昔の中国を知る日本人にとっては考えさせられる話題なのですが、実は、中国の「三大件」は単に人民の憧れの品であるだけでなく、結婚にあたって男性が準備すべきものとする考え方が一般的になっています。

<マイカーは女性が結婚相手に求める必要条件?>

2010年に発表された統計調査(2010年中国婚恋調査報告 [全国婦聯中国婚姻家庭研究会・百合婚恋網])においても、女性が結婚相手に求める必要条件として、①安定的な収入、②マイホーム所有、③一定の貯蓄に次いで、④マイカー所有 (18.6%) を挙げていることが明らかになっています。

また、サーチナが実施した2010年中国消費者の恋愛・結婚に関する意識調査の「結婚する場合マイカーの購入は必要だと思いますか?」との質問項目においても、39.96%が「非常に必要」あるいは「必要」と答えています。

さらに、「マイホームや自動車、お金がない貧乏な男性と付き合うのは時間と感情の無駄遣い! (浪費時間! 浪費感情!)」(弊所女性スタッフ)との怖い意見もよく耳にしますので、中国の独身男性は本当にたいへんです。

<さてマイカーのお値段は?>

さて、それでは、女性が男性に求める結婚の三大条件の一つでもあるマイカーは、ここ中国では一体いくらぐらいで買えるのでしょうか?

新華通信社のニュースサイト「新華網」がバレンタインデーに向けて企画したウェブページを見ると、「2011年 ロマンティックなバレンタインデー 20万元以内の“相思相愛”モデルをご推薦 (2011浪漫情人節20万元内“両情相悦”車型推荐)」とあり、7万~20万元の自動車が10車種余り紹介されています。おそらくこの価格帯が中国の若者たちの購入可能価格帯と分析されているのでしょう。日本円に換算すると91万~260万円 (1元=13円) になります。

大連の2009年度在職労働者平均月間給与 (ジェットロ調べ) が3,231元 (4.2万円) となっていますので、中国の独身男性は配偶者を得る条件の一部を満たすため、なんと給与の20倍以上の出費を覚悟しなければならないわけです。

<マイカーはニューファミリーにとっても必需品>

中国では多くの家庭が共稼ぎであるため、3歳までの子どもが託児所 (托児所) に、3歳から6歳までの子どもが幼稚園 (幼兒園) に通っているケースが多く、通常は保護者が通勤途中に送迎を行います。

また、小学校に関しては、「通学の保護者送迎率は43%であり、うち自動車による送迎率は16%。特に小学校1~2年生の場合の保護者送迎率は100%であり、うち自動車送迎率が20%を占める」(2011.01.12大連天健網)との記事に見られるように、一人っ子を大事にする中国のニューファミリーにとっても車が必需品となりつつあることが分かります (通常、小学校には駐車場が整備されていないので、仮に生徒数が1,000人の場合は160台、2,000人の場合は320台の送迎車が下校時間前後に学校付近で路上駐車をする計算になります)。

今年、大連市城郷建設委員会は、2011年に8億元を投じて20箇所の駐車場を造り、5,077の駐車スペースを確保する旨 (2011.1.31半島晨报) の発表を行ったところですが、既に慢性的な渋滞があり、一日600余台の新車登録申請が行われる現状においては十分とは言いがたく、やはり車両台数のコントロール (制限) や、

道路（七縦七横計画）・橋梁・駐車場の新設及び拡幅、新たな交通インフラの整備、交通秩序回復維持のための適正な管理が速やかに実現されることが必要だと感じられます。



小学校グラウンド横の風景(学校冬休み中)



事務所裏通りの風景

<終わりに>

急速にマイカー社会へと移行しつつある中国（大連）、渋滞や駐車場確保の憂いがあるろうと、給料20ヶ月分の壁があるろうと、当面その勢いは止まるようには見えません。

車がクラクションを鳴らして走り交う大通りで、車の間隙を縫って横断歩道を渡らねばならないとき、偉大な孔子を輩出した中国でこそ「心の欲する所に従いて矩を踰えぬドライバー達」が現れ、歩行者の安心できる交通秩序が実現してほしいものと心から思います。



大連市内の通勤タイムの風景(横断歩道で手を上げて止まってくれるのはタクシーだけ!?)

【富山県大連事務所の紹介】

富山県大連事務所は、富山県と中国との交流の拡大を図るため、2004年4月に中国大連市に開設され、主に下記の事業を実施しております。

(1) 企業等への支援

- 中国での投資を計画している企業に対して、中国の法制度、投資環境、消費市場などの情報提供や相談業務を行います。
- 中国国内の専門家（税務、会計、法律等）を紹介し、企業の中国での活動などに便宜を図ります。
- 中国から富山県への企業誘致活動を行います。
- 中国で観光情報収集活動を行います。

(2) 各種交流事業への支援

- 学術研究、文化・スポーツ、環境協力など幅広い分野において、中国との交流を進めるため、情報提供や連絡調整の業務を行います。
- 富山県内の大学等に進学を希望する方に対して、富山県内の大学等の情報提供を行います。

(3) 富山ファン倶楽部への活動支援

- 留学や研修で富山県に滞在経験等のある中国人により構成する「富山ファン倶楽部」のネットワークを活かし、富山県と中国との各種交流の橋渡し・支援を行います。

(4) 事務スペースの提供

- 大連事務所内に、富山県内の企業や大学等が自由に利用できる事務スペース（机、パソコン等を配置）を設けて、中国での出張、調査活動に便宜を図ります。

〈富山県大連事務所〉

（所在地）〒116011 中国人民共和国遼寧省大連市西崗区中山路147号大連森ビル7F

（T E L）+86-411-83687879 （F A X）+86-411-83682919

（E-mail）office01@toyama.com.cn